

震災復興過程に見る 人と海の将来像

2011年3月に発生した震災から1年が経過しましたが、水産業の復興が思うように進んでいない場所も多い状況があります。更には、復興のゴールについても、社会の継続性を主眼とした復旧をめざすのか、または競争力がある産業を興すために社会的な痛みを伴った改革をめざすのか、議論が収斂しないケースも見られています。そのような中、このシンポジウムでは、東日本大震災からの東北の水産業の復興の現状や2004年にインドネシアで発生した大津波で得られた教訓などを踏まえながら、震災からの復興を円滑化するための議論を深めるとともに、日本における人と海の将来像について理解を深めることをめざします。

1日目 平成24年 5月 14日 月 9:30~17:10

9:30 主催者挨拶 ————— 浦 環 東京大学教授
 東北3県の水産業被害とその対策 ————— 宮原 正典 水産庁次長
 東京大学海洋アライアンスの対応 ————— 黒倉 壽 東京大学教授
 大槌町の水産業復興支援の現状と課題 ————— 川口博美 赤浜の復興を考える会会長
 ・千田良仁 前東京大学特任講師

休憩

13:30 FAOによる震災対応について ————— Lahsen Ababouch
 FAO水産局政策部長
 沿岸災害復興における地方組織の役割 ————— John Kurien
 インド・トリバンドラム開発センター・フェロー
 インドネシア・バンダ・アチェの経験 ————— M. Adli Abdullah
 インドネシア・アチェ州シャークワラ大学教授
 インド洋大津波におけるベンガル湾諸国の対応 ————— Yugraji Yadava
 インド・ベンガル湾プログラム局長

2日目 平成24年 5月 15日 火 9:30~12:20

9:30 沿岸災害における事前マニュアルの限界 ————— Robert Thompson
 米国・ロードアイランド大学教授
 水俣の経験から福島を語る ————— Tim George
 米国・ロードアイランド大学教授
 パネルディスカッション ————— モデレーター：野村一郎 前FAO水産局長
 パネリスト：各報告者

会場 東京大学 弥生キャンパス フードサイエンス棟2F 中島董一郎記念ホール

参加費は無料です。参加を希望される方は事前登録をお願いします。使用言語は英語です。ただし必要に応じて日本語で簡易な説明を付記する場合があります。